冬期に頻用される漢方処方
～咳や冷え対策～

日本臨床漢方医会・漢方家庭医講習会
2020.1.19　新横浜フジビューホテル

本日の話題

１．感染症

　１）傷寒論に基づいた感冒対策

　２）こじれた時の次の一手

２．冷え性

　１）冷え症の重要な３パターン

　２）頻用処方

言葉の定義

東洋医学(日本：狭義）≒漢方

漢方薬を使う医学

鍼灸での医療

指圧・按摩（導引按蹻）

薬膳（食事療法）

中医学:中国の伝統医学

漢方（日本伝統医学）

漢方はもともとは
中国からの伝来

中国伝統医学
も進歩する

気候・風土・人種・食事のちがい

日本：湿気が多い　中国大陸:乾燥

漢方　≠　中医学

千葉大学における漢方医学の流れ

1939(昭和14)年

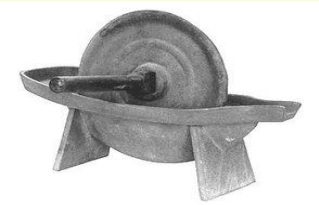
千葉医科大学東洋医学研究会　発足

1940(昭和15)年　藤平 健先生が卒業

1942(昭和17)年　小倉重成先生が卒業

～太平洋戦争～

1945(昭和20)年　東洋医学講義が始まる



千葉大学における漢方医学の歴史

1939(昭和14)年　千葉医科大学　東洋医学研究会発足

今は外部の方も参加できます。
詳しくは、千葉大学東洋医学研究会ホームページまで。

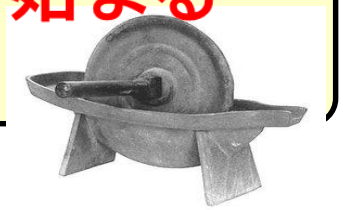
～太平洋戦争～

1947(昭和22)年東洋医学研究会「自由講座」開設

～学生のための漢方講義の開始～

1950(昭和25)年

自由講座開始時間前に漢方外来が始まる



漢方外来
（昭和25年～54年）

昭和13（1938）年頃　自宅二階にて

千葉大学和漢診療学講座の歴史

千葉大学

9月：新病院移転
漢方外来中止

第一内科（大藤正雄教授）
で漢方外来診療開始
松下嘉一先生

柏の葉診療所　開所

医学部和漢診療学講座開設
寺澤捷年教授就任
10月：附属病院で診療開始

並木隆雄科長・診療教授就任

和漢診療科・鍼灸外来開始

2005

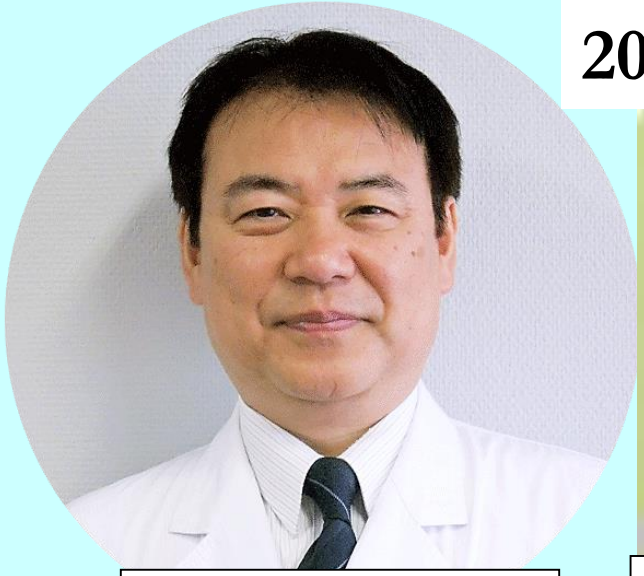
2011・12

2015

千葉大学附属病院和漢診療科　診療スタッフ

2018年11月時点

平崎能郎講師



並木隆雄科長

秋葉哲生客員教授

八木　明男医員

和泉　裕子医員

森田　智鍼灸師

診療の流れ

診

察

西洋医学

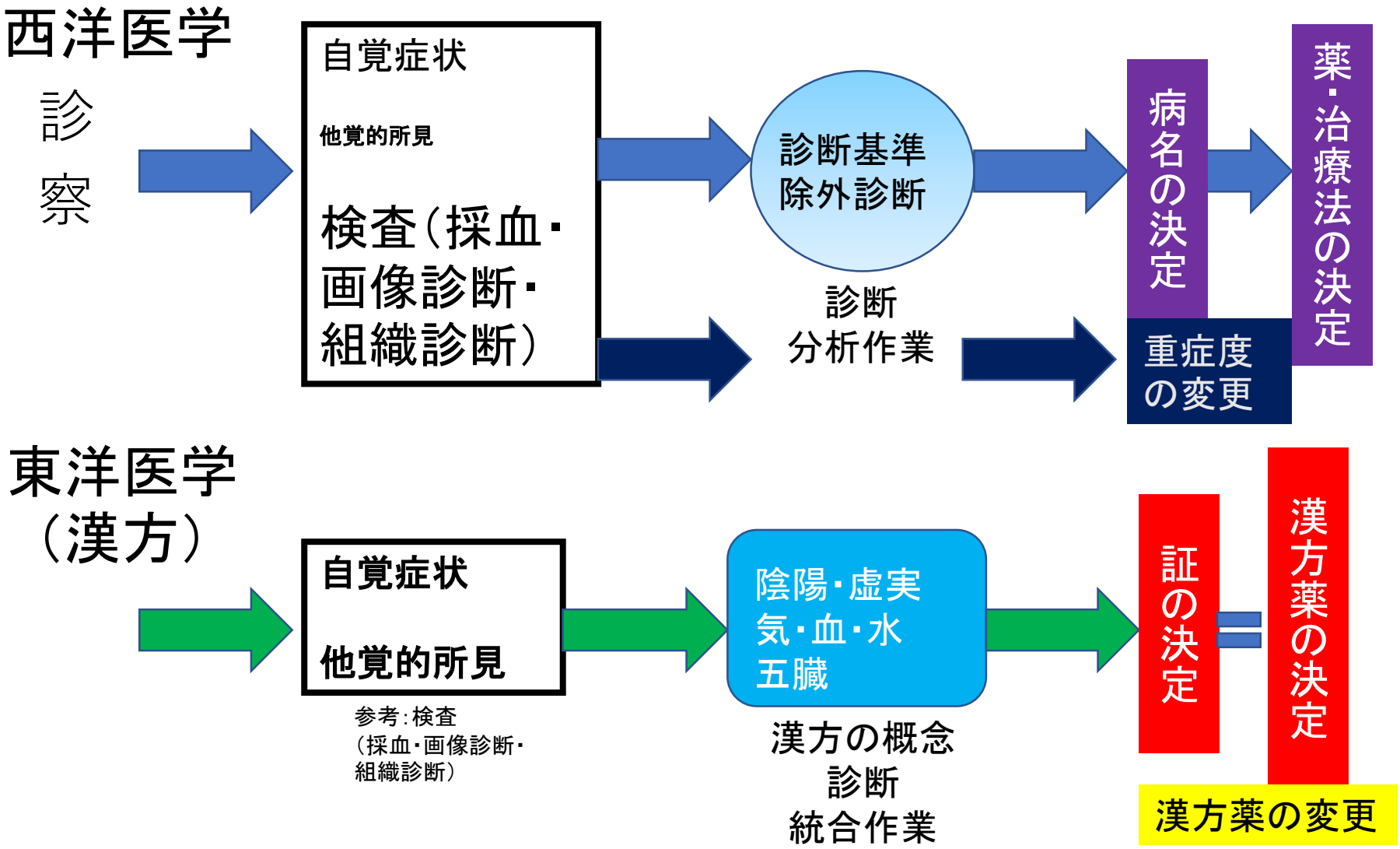
分析し、原因を探す
病名診断が主体

診療の流れ

（現在の）症状の把握が
主体
処方の決定

東洋医学
（漢方）

診療の流れ


西洋医学
診察
自覚症状
他覚的所見
検査（採血・画像診断・組織診断）
診断基準
除外診断
診断
分析作業
病名の決定
重症度の変更
薬・治療法の決定
東洋医学（漢方）
自覚症状
他覚的所見
参考：検査（採血・画像診断・組織診断）
陰陽・虚実
気・血・水
五臓
漢方の概念
診断
統合作業
証の決定
漢方薬の決定
漢方薬の変更

隋証治療

傷寒論

辨太陽病脉證并治上第五.

太陽病三日. 已發汗. 若吐. 若下. 若温鍼. 仍不解者. 此爲壞病. 桂枝不中與之也. **觀其脉證. 知犯何逆. 隨證治之.**

隋証治療

中医学治療指針

日本の漢方の特徴

弁証論治

方証相対

漢方の運用法

1.　病名での運用

2.　証を考慮（脈・舌・腹証）

　　六病位に当てはめる

　　気・血・水の異常

　　本草的な知識による運用

2－2.　　（主に中医学）

　　陰陽五行説による運用

３．後世の経験＝口訣

　　出典の条文

秋葉哲生　診断系概説より改変

傷寒論

中国で1800年くらいに書かれた書物

日本の漢方医学で一番重要視される

吉益東洞（1702～1773）

張仲景（150～219年）

しょう かん ろん

傷 寒 論

後漢末　漢方治療の原典

急性熱性疾患をモデルとして
病気の流れとその変化に
対する治療法（薬方）を記述

傷寒（悪性）　インフルエンザ

中風（良性）　鼻かぜ

抗微生物薬適正使用の手引き
第一版
ダイジェスト版

対象：基礎疾患のない学童期以降の小児と成人

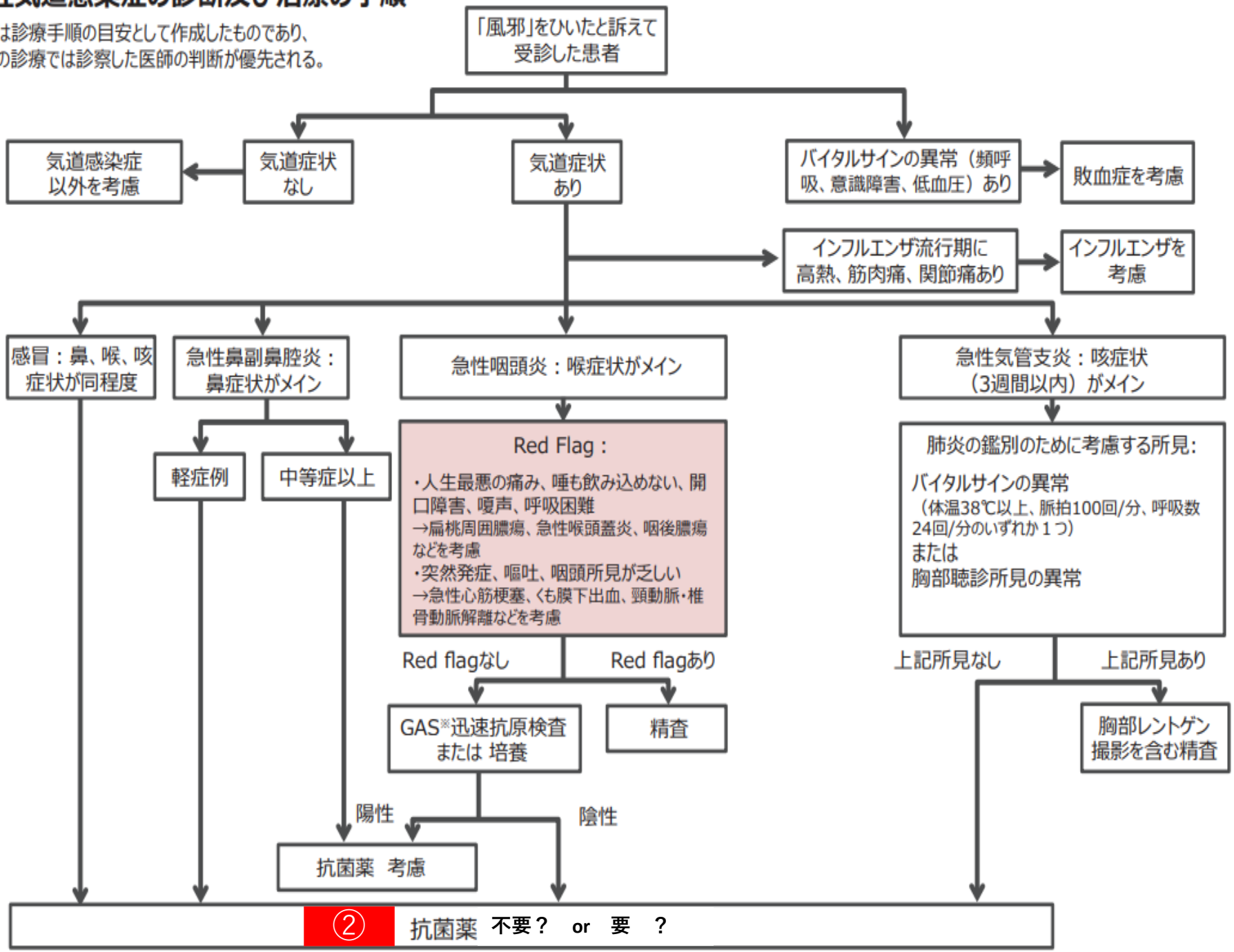
Ⅰ-1 感冒

発熱の有無は問わず、鼻症状（鼻汁、鼻閉）、咽頭症状（咽頭痛）、下気道症状（咳、痰）の3系統の症状が「同時に」、「同程度」存在する病態

感冒に対しては、抗菌薬投与を ① を推奨する。

急性気道感染症の診断及び治療の手順

本図は診療手順の目安として作成したものであり、
実際の診療では診察した医師の判断が優先される。



抗微生物薬適正使用の手引き
第一版
ダイジェスト版

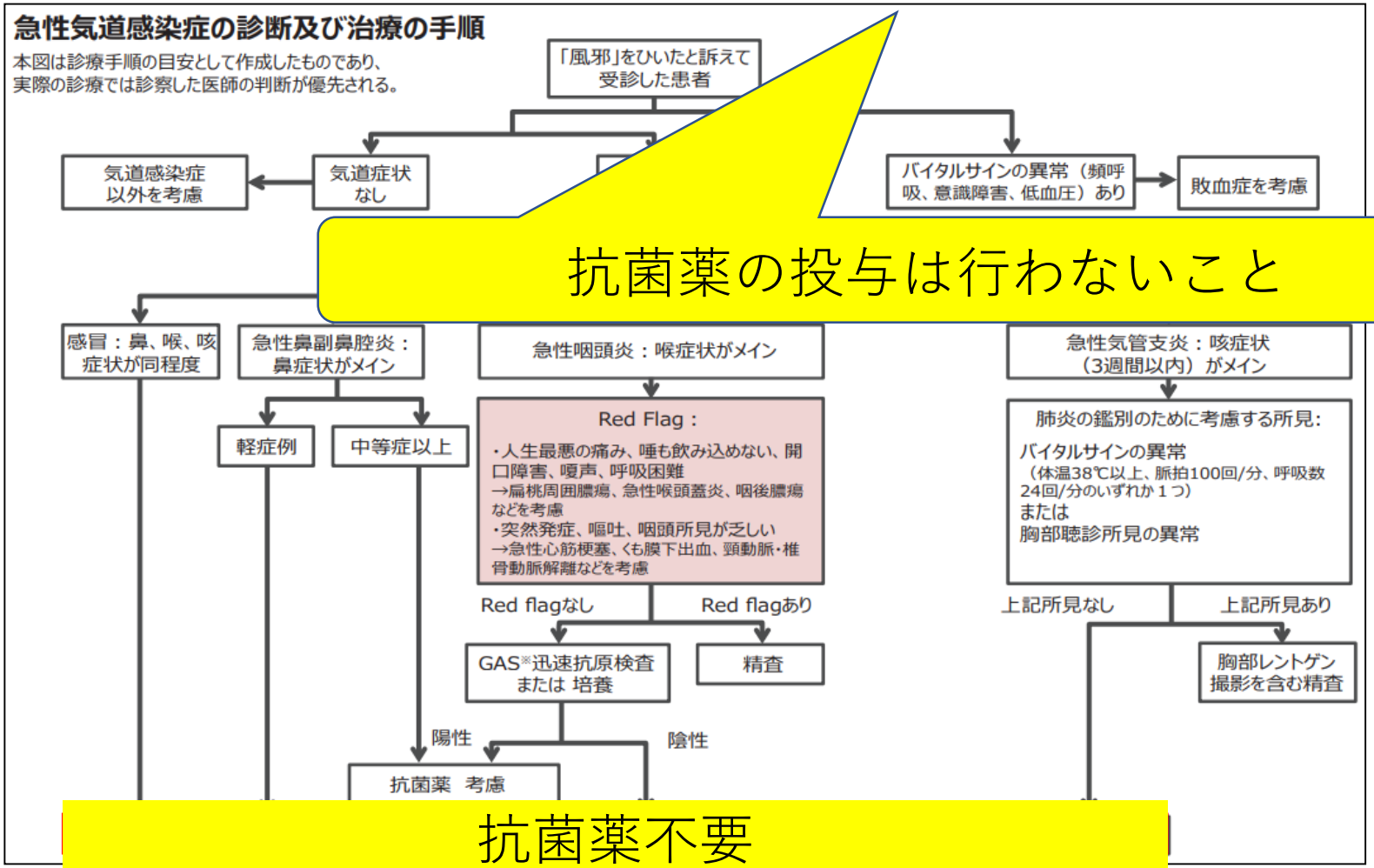
対象：基礎疾患のない学童期以降の小児と成人

厚生労働省
健康局　結核感染症課

Ⅰ-1 感冒

発熱の有無は問わず、鼻症状（鼻汁、鼻閉）、咽頭症状（咽頭痛）、下気道症状（咳、痰）の3系統の症状が「同時に」、「同程度」存在する病態

感冒に対しては、抗菌薬投与を行わないことを推奨する。



http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/tebiki_1.pdf

急性病の分類

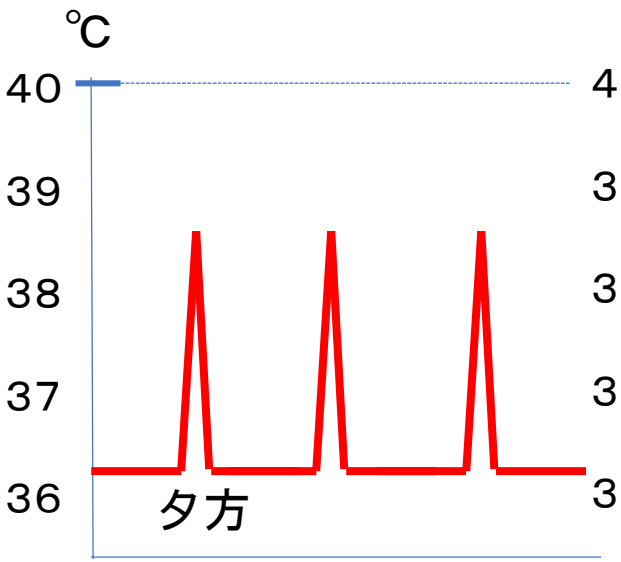
傷寒論の六病位

六病位（時期）

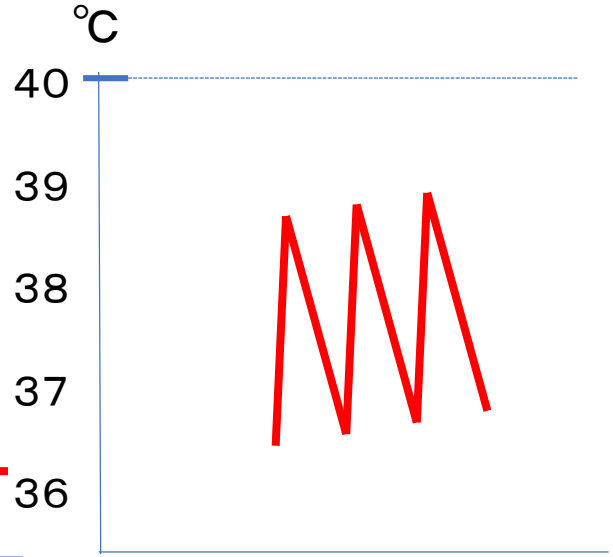
病　　期

陽　証　　陰　証

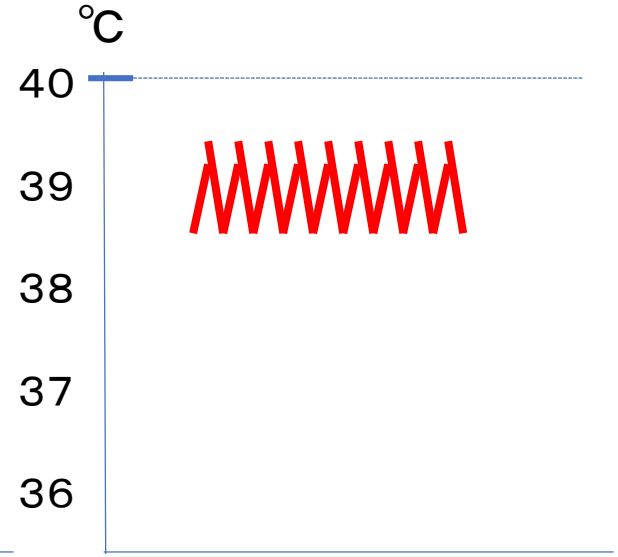
病位と熱型



周期熱
（太陽病）

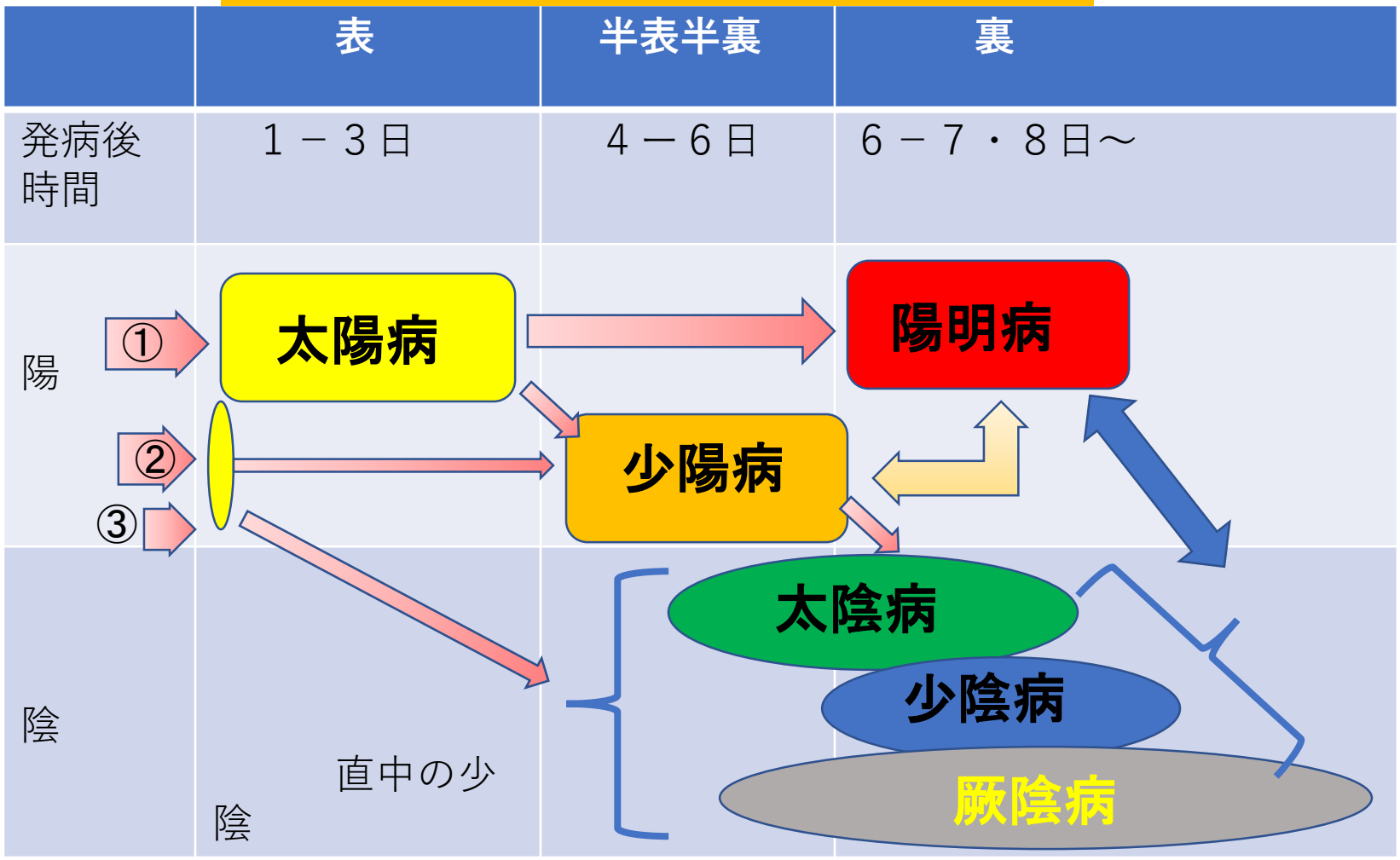


弛張熱
往来寒熱
（少陽病）



持続熱・稽留熱
（陽明病）

病の転変（寺澤先生）



病邪の侵入

①~③　進展のパターン

寺澤捷年の図改変

ICD-11　（WHO)

【虚実】

虚証

中間証

実証

【寒熱】

寒証

中間証

熱証

寒熱錯雑

【六病位】

太陽病

少陽病

陽明病

太陰病

少陰病

厥陰病

【気血水】

気虚

気うつ・気滞

気逆

血虚

瘀血

水毒

「傷寒論」における太陽病（太陽病上篇）

太陽之為病脈浮
頭項強痛而悪寒
太陽病或已発熱或未発熱
必悪寒体痛嘔逆
脈陰陽俱緊者名曰傷寒

「傷寒論」における太陽病（太陽病上篇）

病気の始まり①に脈が触れやすくなります

頭痛がして④寒気もします。

病気の始まり①に、発熱②して

悪寒がして④体中が痛い

脈が非常に張る人は

傷寒」と言います

「傷寒論」における太陽病（太陽病上篇）

インフルエンザの臨床診断基準

① 突然の発症
② 38度を超える発熱
③ 上気道炎症状
④ 全身症状（頭痛、悪寒、関節痛、筋肉痛など）

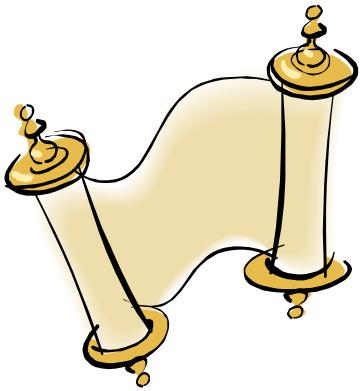
①
太陽之為病脈浮
④
頭項強痛而悪寒

①
太陽病或已発熱或未発熱
②
④
必悪寒体痛嘔逆

脈陰陽俱緊者名曰傷寒

太陽病(感冒の初期)

傷寒論



部位　　表証　　表熱証

症候

発病の初期で、悪寒あるいは悪風、

発熱（微熱）、頭痛、首のこり強、脈浮

主な薬方

桂枝湯、葛根湯、麻黄湯

表　温める

体力と病邪

病　　期

陽　証　　陰　証

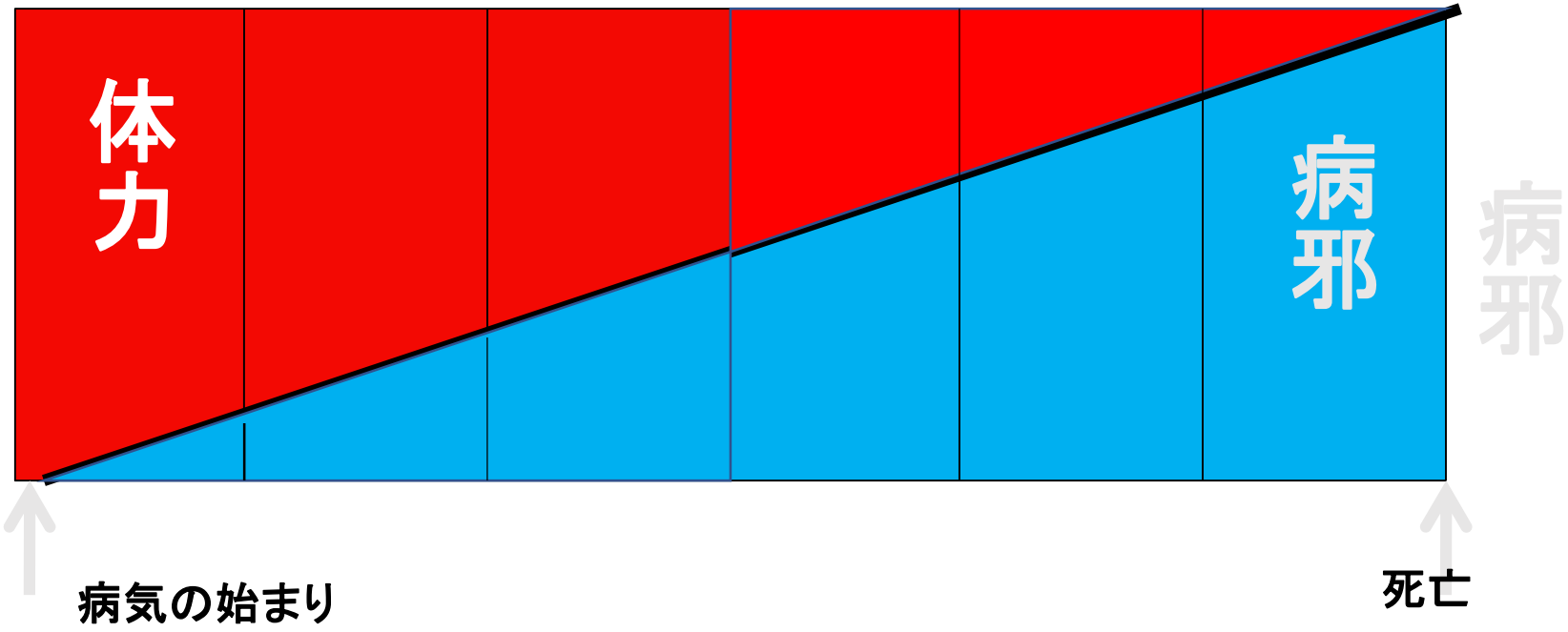
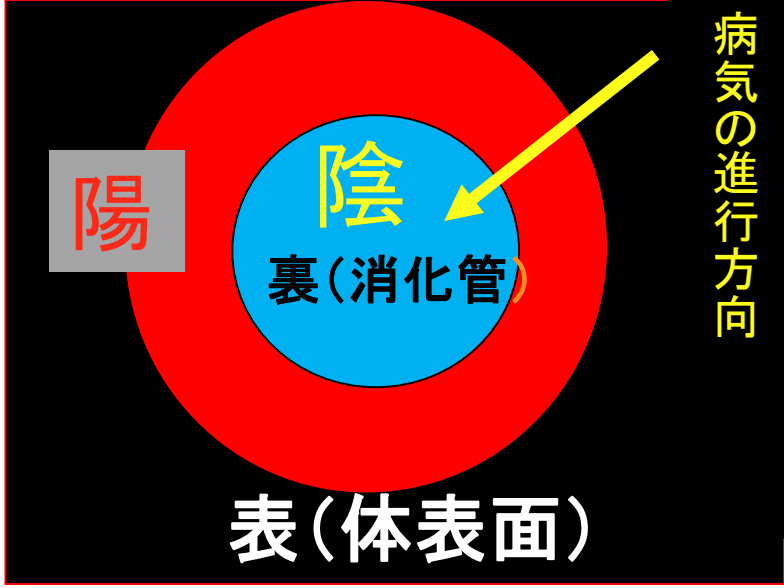


表　裏（部位）



陽　証　　陰　証

表証	半表半裏証	裏証	裏証		

表・半表半裏・裏

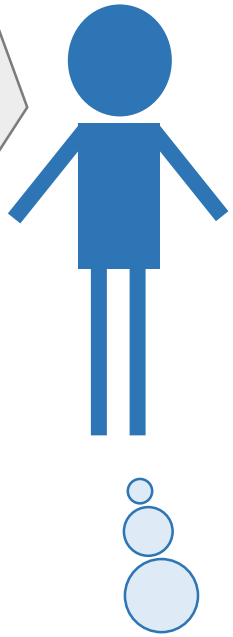
	主な部位	関連する症状
表 **見えるところ**	皮膚 筋肉 骨（関節部） 咽頭（上気道）	**乾燥発汗・冷えほてり** **筋肉痛肩こり・クランプ** **疼痛・関節痛** **疼痛・咳**
半表半裏	呼吸器（下気道） 心臓・縦隔・ 上部消化器 肝胆膵臓	**疼痛・痰・咳・胸部症状** **胸痛** **嘔気嘔吐・** **上腹部痛・季肋部痛**
裏	下部消化器 後腹膜臓器 腎・膀胱・生殖器 子宮・卵巣 骨（骨髄）	**下痢・便秘・腹満** **下腹部痛・下腹部熱感疼痛** **尿路系症状** **婦人科系症状** **骨痛**

漢方薬による感冒の治療（太陽病期）

	共通徴候	特異的徴候	随伴徴候	適応となる方剤
表実証	自然発汗がない 脈：実	口渇、精神不穏	裏熱	大青竜湯
		喘鳴、関節痛、鼻出血、咽痛		麻黄湯
		項背部の強いこり		葛根湯
表虚実間証	わずかに自然発汗あり	顔面の紅潮、口渇	裏熱	越婢湯
		咽痛、皮膚のかゆみ	波状の熱感	桂麻各半湯
		のぼせ感、口渇		桂枝二越婢一湯
		項背部のこり		桂枝加葛根湯
表虚証	自然発汗あり 脈：弱	喘鳴、水様鼻汁	水滞	小青龍湯
		鼻炎症状、乾嘔		桂枝湯
		胸満感、腹満感	気滞	香蘇散

症例１：56歳　男性

（患者）
昨日、仕事から帰宅したところ、急に悪寒がして、その後、発熱し、熱は38.1度であった。
頭痛があり、後頭部から後背部にかけて重苦しい。



（医師）
汗の具合はいかがですか？

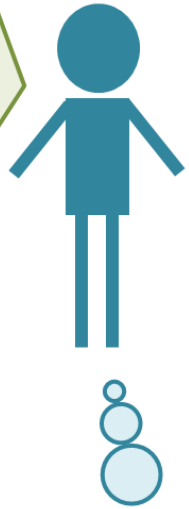
（患者）
汗は出ていません。

【脈診】浮いていて、力強い。
【腹診】腹力は充実している。

00:20

症例１：56歳　男性

（患者）
昨日、仕事から帰宅したところ、急に悪寒がして、その後、発熱し、熱は38.1度であった。
頭痛があり、後頭部から後背部にかけて重苦しい。



（医師）
汗の具合はいかがですか？

（患者）
汗は出ていません。

【脈診】浮いていて、力強い。
【腹診】腹力は充実している。

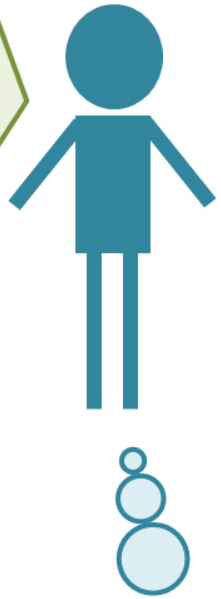
この患者の虚実は何？

A. 虚証
B. 中間証
C. 実証

虚実の判定：実証

症例１：56歳　男性

（患者）
昨日、仕事から帰宅したところ、急に悪寒がして、その後、発熱し、熱は38.1度であった。
頭痛があり、後頭部から後背部にかけて重苦しい。



（医師）
汗の具合はいかがですか？

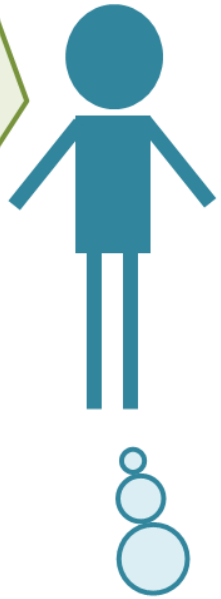
（患者）
汗は出ていません。

【脈診】浮いていて、力強い。
【腹診】腹力は充実している。

寒熱の判定：熱証

症例１：56歳　男性

（患者）
昨日、仕事から帰宅したところ、急に悪寒がして、その後、発熱し、熱は38.1度であった。
頭痛があり、後頭部から後背部にかけて重苦しい。



（医師）
汗の具合はいかがですか？

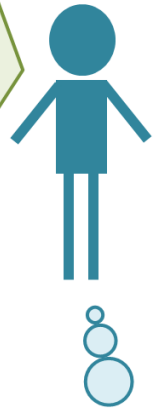
（患者）
汗は出ていません。

【脈診】浮いていて、力強い。
【腹診】腹力は充実している。

00:20

症例１：56歳　男性

（患者）
昨日、仕事から帰宅したところ、急に悪寒がして、その後、発熱し、熱は38.1度であった。
頭痛があり、後頭部から後背部にかけて重苦しい。



（医師）
汗の具合はいかがですか？

（患者）
汗は出ていません。

【脈診】浮いていて、力強い。
【腹診】腹力は充実している。

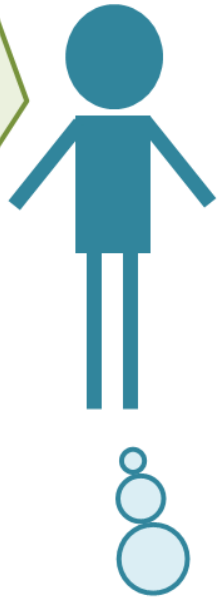
この患者の六病位は何？

A. 太陽病
B. 少陽病
C. 陽明病
D. 太陰病
E. 少陰病
F. 厥陰病

六病位の判定：太陽病

症例１：56歳　男性

（患者）
昨日、仕事から帰宅したところ、急に悪寒がして、その後、発熱し、熱は38.1度であった。
頭痛があり、後頭部から後背部にかけて重苦しい。



（医師）
汗の具合はいかがですか？

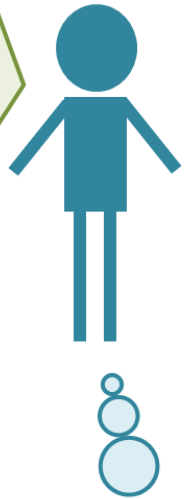
（患者）
汗は出ていません。

【脈診】浮いていて、力強い。
【腹診】腹力は充実している。

00:20

症例１：56歳　男性

（患者）
昨日、仕事から帰宅したところ、急に悪寒がして、その後、発熱し、熱は38.1度であった。
頭痛があり、後頭部から後背部にかけて重苦しい。



（医師）
汗の具合はいかがですか？

（患者）
汗は出ていません。

【脈診】浮いていて、力強い。
【腹診】腹力は充実している。

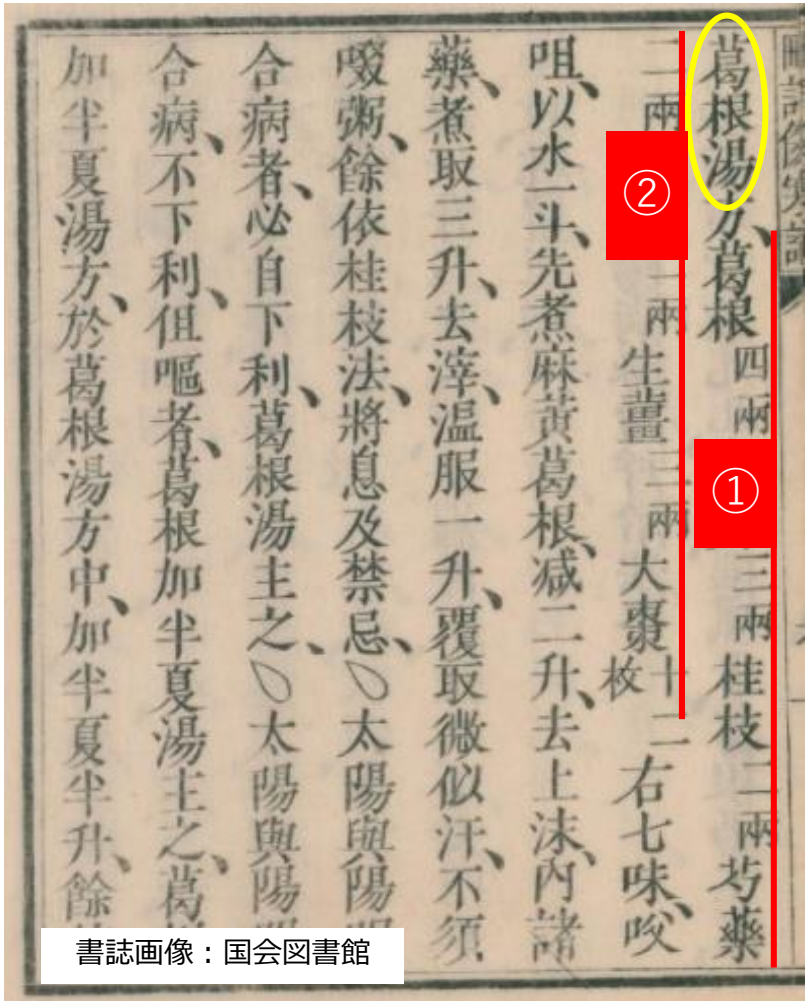
この患者の処方は何？

A. 葛根湯
B. 桂枝湯
C. 小柴胡湯
D. 小青竜湯
E. 麻黄湯

『傷寒雑病論』張仲景

葛根湯の構成生薬

00:20



書誌画像：国会図書館

①と②に当てはまる生薬は何か？

A. ①当帰（ﾄｳｷ） ②人参（ﾆﾝｼﾞﾝ）

B. ①麻黄（ﾏｵｳ） ②甘草（ｶﾝｿﾞｳ）

漢方薬による感冒の治療（太陽病期）

	共通徴候	特異的徴候	随伴徴候	適応となる方剤
表実証	自然発汗がない 脈：実	口渇、精神不穏	裏熱	大青竜湯
		喘鳴、関節痛、鼻出血、咽痛		麻黄湯
		項背部の強いこり		葛根湯
表虚実間証	わずかに自然発汗あり	顔面の紅潮、口渇	裏熱	越婢湯
		咽痛、皮膚のかゆみ	波状の熱感	桂麻各半湯
		のぼせ感、口渇		桂枝二越婢一湯
		項背部のこり		桂枝加葛根湯
表虚証	自然発汗あり 脈：弱	喘鳴、水様鼻汁	水滞	小青龍湯
		鼻炎症状、乾嘔		桂枝湯
		胸満感、腹満感	気滞	香蘇散

症例2

28歳の妊婦

昨日の夜から頭痛・鼻水があり、熱を測ったところ37.8度あった。

就寝中に少し汗をかき着替えたという。

脈は浮いて弱い。

虚実の判定：虚証

症例2

28歳の妊婦

昨日の夜から頭痛・鼻水があり、熱を測ったところ37.8度あった。就寝中に少し汗をかき着替えたという。脈は浮いて弱い。

寒熱の判定：熱証

症例2

28歳の妊婦

昨日の夜から頭痛・鼻水があり、熱を測ったところ37.8度あった。就寝中に少し汗をかき着替えたという。脈は浮いて弱い。

六病位の判定：太陽病

症例2

28歳の妊婦

昨日の夜から頭痛・鼻水があり、熱を測ったところ37.8度あった。就寝中に少し汗をかき着替えたという。脈は浮いて弱い。

症例2

28歳の妊婦

昨日の夜から頭痛・鼻水があり、熱を測ったところ37.8度あった。就寝中に少し汗をかき着替えたという。脈は浮いて弱い。

この患者には

「桂枝湯」を処方するのが適切でしょう。

漢方薬による感冒の治療（太陽病期）

	共通徴候	特異的徴候	随伴徴候	適応となる方剤
表実証	自然発汗がない 脈：実	口渇、精神不穏	裏熱	大青竜湯
		喘鳴、関節痛、鼻出血、咽痛		麻黄湯
		項背部の強いこり		葛根湯
表虚実間証	わずかに自然発汗あり	顔面の紅潮、口渇	裏熱	越婢湯
		咽痛、皮膚のかゆみ	波状の熱感	桂麻各半湯
		のぼせ感、口渇		桂枝二越婢一湯
		項背部のこり		桂枝加葛根湯
表虚証	自然発汗あり 脈：弱	喘鳴、水様鼻汁	水滞	小青龍湯
		鼻炎症状、乾嘔		桂枝湯
		胸満感、腹満感	気滞	香蘇散

葛根湯 or 桂枝湯

葛根湯	桂枝湯
✓実証	✓虚証
✓熱証	✓熱証
✓太陽病	✓太陽病

症例3

32歳の男性

昨日、仕事から帰宅したところ急に悪寒がし、その後、発熱し、熱は38.9度あった。節々に痛みがあるという。汗の具合をきいたところ、汗は出ていないという。脈は浮いていて力強く、腹力は充実している。

虚実の判定：実証

症例3

32歳の男性

昨日、仕事から帰宅したところ急に悪寒がし、その後、発熱し、熱は38.9度あった。節々に痛みがあるという。汗の具合をきいたところ、汗は出ていないという。脈は浮いていて力強く、腹力は充実している。

寒熱の判定：熱証

症例3

32歳の男性

昨日、仕事から帰宅したところ急に悪寒がし、その後、発熱し、熱は38.9度あった。節々に痛みがあるという。汗の具合をきいたところ、汗は出ていないという。脈は浮いていて力強く、腹力は充実している。

六病位の判定：太陽病

症例3

32歳の男性

昨日、仕事から帰宅したところ急に悪寒がし、その後、発熱し、熱は38.9度あった。節々に痛みがあるという。汗の具合をきいたところ、汗は出ていないという。脈は浮いていて力強く、腹力は充実している。

症例3
32歳の男性

昨日、仕事から帰宅したところ急に悪寒がし、その後、発熱し、熱は38.9度あった。節々に痛みがあるという。汗の具合をきいたところ、汗は出ていないという。脈は浮いていて力強く、腹力は充実している。

この患者には

「麻黄湯」を処方するのが適切でしょう。

葛根湯 or 麻黄湯

葛根湯		麻黄湯
✓ 実証	≪	✓ 実証
✓ 熱証	≪	✓ 熱証
✓ 太陽病		✓ 太陽病

葛根湯 or 麻黄湯

＜葛根湯の条文＞

「太陽病，項背強ること几几として，汗なく悪風するは，葛根湯之を主る」

（傷寒論太陽病中篇）

＜麻黄湯の条文＞

「太陽病，頭痛発熱，身疼腰痛，骨節疼痛，悪風し，汗無くして喘する者，麻黄湯之を主る」

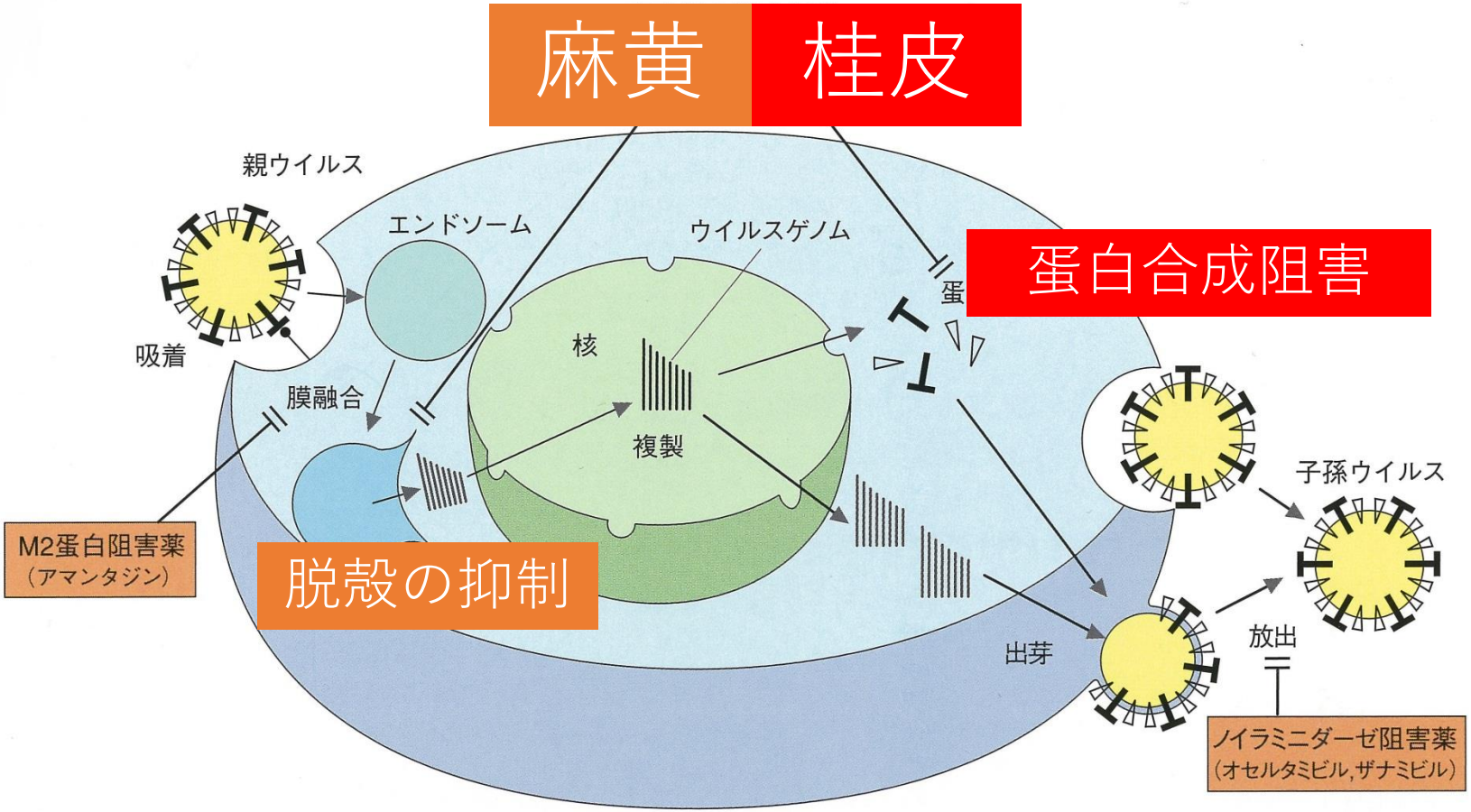
（傷寒論太陽病中篇）

感冒初期に用いられる主な方剤と構成生薬

方剤	構成生薬
大青龍湯	麻黄　杏仁　桂皮　生姜　大棗　石膏　甘草
麻黄湯	麻黄　杏仁　桂皮　甘草
葛根湯	葛根　麻黄　生姜　大棗　桂皮　芍薬　甘草
小青龍湯	麻黄　芍薬　乾姜　甘草　桂皮　細辛　五味子　半夏
桂枝加葛根湯	桂皮　芍薬　生姜　大棗　甘草　葛根
桂枝湯	桂皮　芍薬　生姜　大棗　甘草

麻黄や桂皮が含まれている

漢方薬のメカニズム



麻黄：Mantani N,et al. Antibirel Res 1999, 44, 193-200
桂枝：Hayashi K.,,et al. Antibirel Res 2007, 74, 1-8

A randomized, controlled trial comparing traditional herbal medicine and neuraminidase inhibitors in the treatment of seasonal influenza.

Nabeshima S[1], Kashiwagi K, Ajisaka K, Masui S, Takeoka H, Ikematsu H, Kashiwagi S.

Abstract

The herbal medicine, maoto, has been traditionally prescribed to patients with influenza in Japan. To better understand the efficacy of maoto for the treatment of influenza, a randomized trial was conducted for comparison with oseltamivir or zanamivir. Adult patients with influenza symptoms, including fever, positive for quick diagnostic kit for influenza within 48 h of fever onset were assessed for enrollment. The data of 28 patients randomly assigned to maoto (n = 10), oseltamivir (n = 8), or zanamivir (n = 10) were analyzed for the duration of fever (>37.5° C) and total symptom score from symptom cards recorded by the patient. Viral isolation and serum cytokine measurements were also done on days 1, 3, and 5. Maoto granules, a commercial medical dosage form, are made from four plants: Ephedra Herb, Apricot Kernel, Cinnamon Bark, and Glycyrrhiza Root. Median durations of fever of patients assigned maoto, oseltamivir, or zanamivir were 29, 46, or 27 h, respectively, significantly different for maoto and oseltamivir. No significant between-group differences were found in total symptom score among three groups. Viral persistent rates and serum cytokine levels (IFN-α, IL-6, IL-8, IL-10, and TNF-α) during the study period showed no differences among three groups. The administration of oral maoto granules to healthy adults with seasonal influenza was well tolerated and associated with equivalent clinical and virological efficacy to neuraminidase inhibitors.

J Infect Chemother. 2012 Aug;18(4):534-43..

麻黄湯のエビデンスA randomized, controlled trial comparing traditional herbal medicine and neuraminidase inhibitors in the treatment of seasonal influenza.

Nabeshima S[1], Kashiwagi K, Ajisaka K, Masui S, Takeoka H, Ikematsu H, Kashiwagi S.

Abstract
麻黄湯とオセルタミビルまたはザナミビルとの比較のためにランダム化試験
対象：発熱の48時間以内にインフルエンザの迅速診断キットに陽性の成人患者
麻黄湯（n = 10）、オセルタミビル（n = 8）、またはザナミビル（n = 10）にランダムに
・発熱期間（> 37.5°C）について分析し、記録された症状カードの総症状スコア患者
・ウイルスの分離
・血清サイトカインの測定（1、3、5日目）

結果：麻黄湯、オセルタミビル、またはザナミビルの発熱期間の中央値は、それぞれ29時間、46時間、または27時間であり、麻黄湯とオセルタミビルでは有意低値た。
3つのグループ間で総症状スコアにグループ間の有意差はなし
研究期間中のウイルス持続率とIFN-α、IL-6、IL-8、IL-10、およびTNF-α）は、3つのグループ間で差なし。
結論：
季節性インフルエンザの健康な成人への経口麻黄湯顆粒の投与は忍容性が高く、ノイラミニダーゼ阻害薬と同等の臨床的およびウイルス学的有効性があった。

J Infect Chemother. 2012 Aug;18(4):534-43..

麻黄湯の添付文書

効能又は効果

悪寒、発熱、頭痛、腰痛、自然に汗の出ないものの

次の諸症：

感冒、インフルエンザ(初期のもの)、

関節リウマチ、喘息、乳児の鼻閉塞、哺乳困難

インフルエンザ（高熱＋無汗）
　大青龍湯
若・中：麻黄湯（5）＋越婢加朮湯（６）＝麻黄が多い（11）
　　または
高齢者：桂枝湯＋麻杏甘石湯（４）＝石膏が多い
数値：g数

内服方法

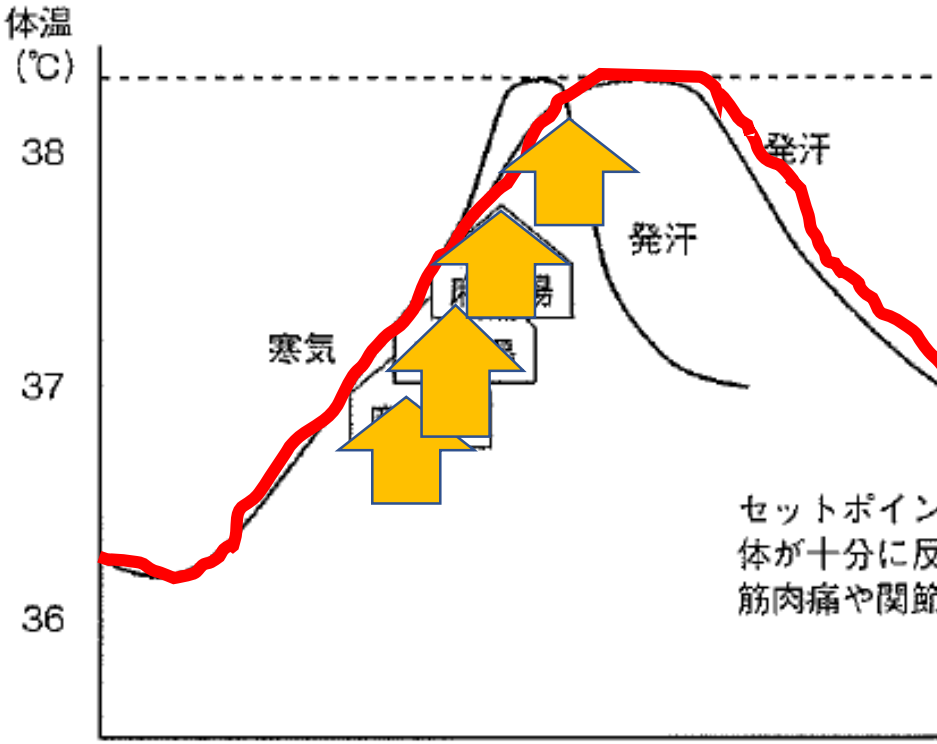
能書はエキス麻黄湯・葛根湯３包分三（食前）だが、

（注意）発熱が持続する場合は、間隔を考えず内服（3回以上も可）。発汗するまで内服

発汗しだしたら、連続内服中止する。

高齢者は1回の内服量を調節する（例：半分から始める。発汗しないなら、再度服用）

前立腺肥大・心臓病のある場合は慎重投与



温服するメリット

- 香りや味による効果の向上
  生姜の匂い、辛味による消化機能の改善
  シソの香りによる抗うつ様作用　など
- 吸収が早い
- 冷えによる症状の改善
- 粉をそのまま服用するよりむせづらい
- 義歯にはさまらない

漢方薬による感冒の治療（太陽病期）

	共通徴候	特異的徴候	随伴徴候	適応となる方剤
表実証	自然発汗がない 脈：実	口渇、精神不穏	裏熱	大青竜湯
		喘鳴、関節痛、鼻出血、咽痛		麻黄湯
		項背部の強いこり		葛根湯
表虚実間証	わずかに自然発汗あり	顔面の紅潮、口渇	裏熱	越婢湯
		咽痛、皮膚のかゆみ	波状の熱感	桂麻各半湯
		のぼせ感、口渇		桂枝二越婢一湯
		項背部のこり		桂枝加葛根湯
表虚証	自然発汗あり 脈：弱	喘鳴、水様鼻汁	水滞	小青龍湯
		鼻炎症状、乾嘔		桂枝湯
		胸満感、腹満感	気滞	香蘇散

漢方薬による感冒の治療（太陽病期）

	共通徴候	特異的徴候	随伴徴候	適応となる方剤
表実証	自然発汗がない 脈：実	口渇、精神不穏	裏熱	大青竜湯
		喘鳴、関節痛、鼻出血、咽痛		麻黄湯
		項背部の強いこり		葛根湯
表虚実間証	わずかに自然発汗あり	顔面の紅潮、口渇	裏熱	越婢湯
		咽痛、皮膚のかゆみ	波状の熱感	桂麻各半湯
		のぼせ感、口渇		桂枝二越婢一湯
		項背部のこり		桂枝加葛根湯
表虚証	自然発汗あり 脈：弱	喘鳴、水様鼻汁	水滞	小青龍湯
		鼻炎症状、乾嘔		桂枝湯
		胸満感、腹満感	気滞	香蘇散

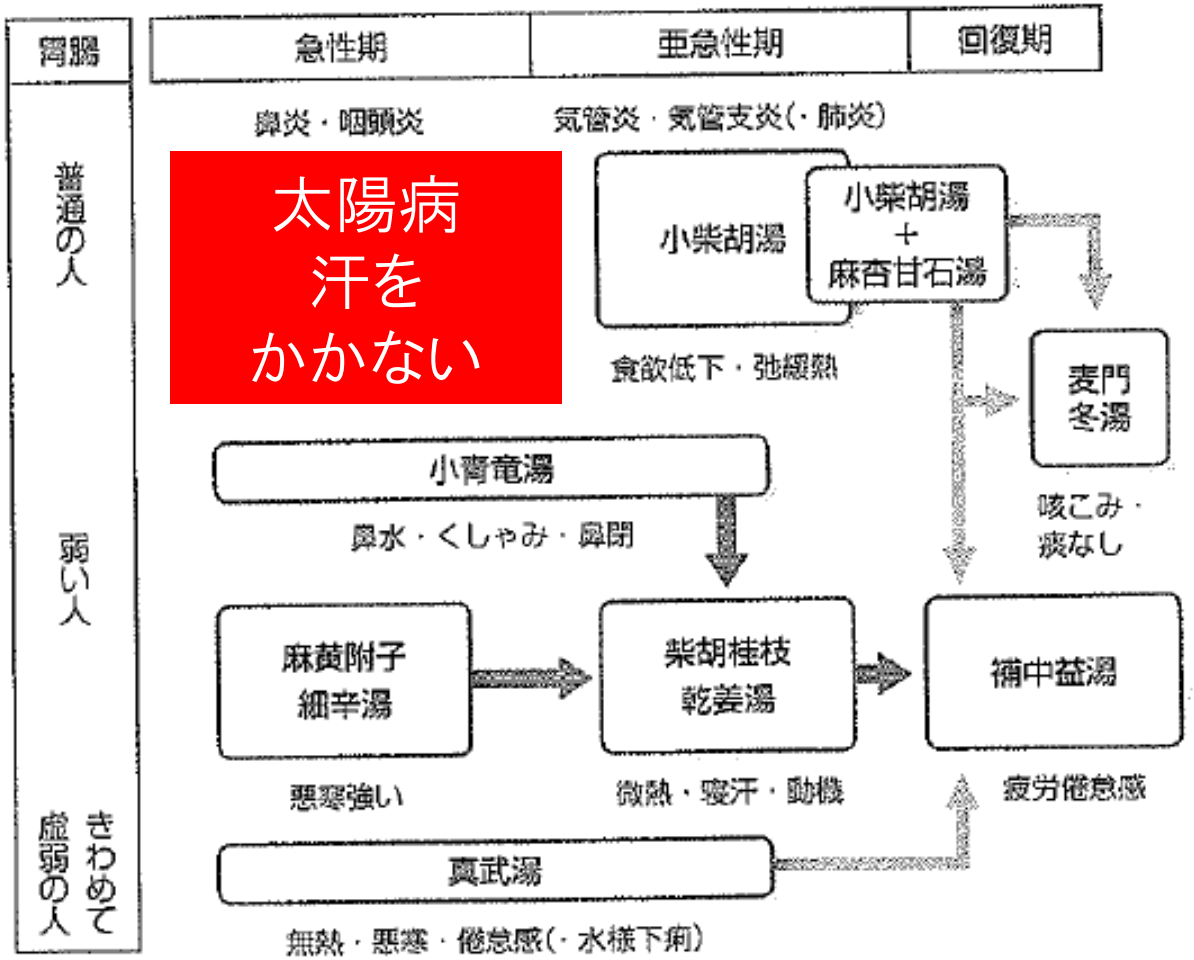


図2 感冒における葛根湯の使用の証
(松田邦夫ほか編：漢方治療のABC，第1版，(五島雄一郎ほか監修，) 医学書院，東京，1992より引用改変)

薬局：2009（60）,105

漢方薬による感冒の治療（太陽病期）

	共通徴候	特異的徴候	随伴徴候	適応となる方剤
表実証	自然発汗がない 脈：実			
表虚実間証	わずかに自然発汗あり	顔面の紅潮、口渇	裏熱	越婢湯
		咽痛、皮膚のかゆみ	波状の熱感	桂麻各半湯
		のぼせ感、口渇		桂枝二越婢一湯
		項背部のこり		桂枝加葛根湯
表虚証	自然発汗あり 脈：弱	喘鳴、水様鼻汁	水滞	小青龍湯
		鼻炎症状、乾嘔		桂枝湯
		胸満感、腹満感	気滞	香蘇散

胃腸	急性期	亜急性期	回復期
普通の人	太陽病 麻黄湯 葛根湯	気管炎・気管支炎(・肺炎) 小柴胡湯 小柴胡湯 + 麻杏甘石湯	表門冬湯 咳こみ 痰なし
弱い人	鼻閉タイプ：葛根湯加川芎辛夷 太陽病　小青竜湯 鼻水・くしゃみタイプ 麻黄附子細辛湯	柴胡桂枝乾姜湯	補中益湯